

スーパーマーケット景気動向調査

5月調査結果(4月実績)

三協会会員企業の中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を数量的に明らかにすることを目的としています。また、スーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因について補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

■調査項目

「売上」、「収益」、「仕入れ価格」、「販売価格」、「客単価」、「客数」

■調査方法

前年同月との比較、及び前月との比較

「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階

DIの算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※0以上なら増加との見方が多く、0以下なら減少との見が多い

【景況感調査】

■調査項目

「景気状況」、「消費者購買意欲」、「周辺の競合状況」、「周辺地域の景気」

■調査方法

2~3ヵ月前と比較した現状、及び今後2~3ヵ月の見通し

「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階

DIの算出方法

回答構成比(%)に、以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0.0

※50以上なら改善との見方が多く、50以下なら厳しい見が多い

平成23年5月24日

日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
社団法人新日本スーパーマーケット協会

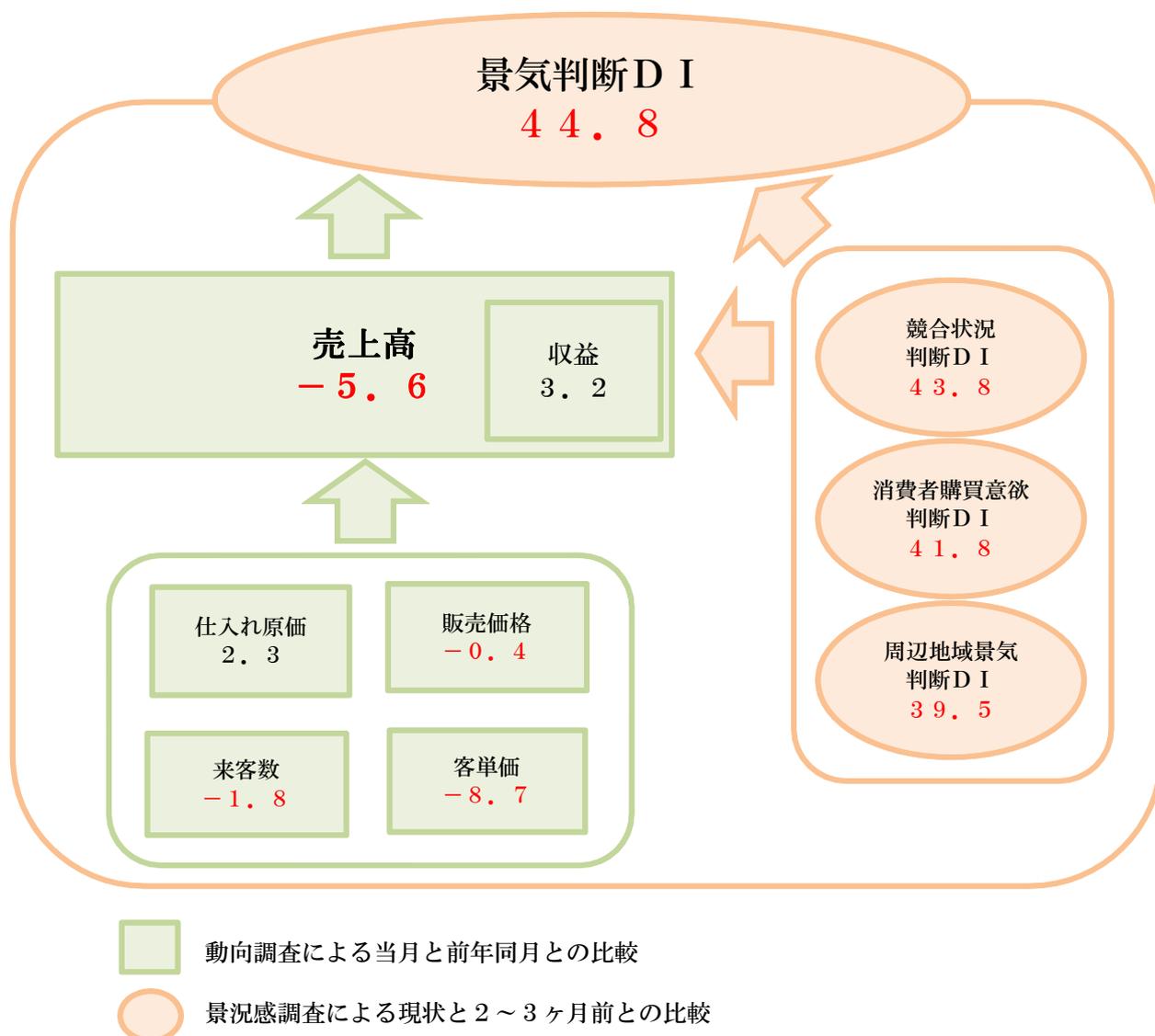
スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ：tokei@super.or.jp

I. 4月中核店舗における景気動向

4月の景気判断D Iは、44.8と50をやや下回る結果となった。

経営動向調査によると4月は収益が(3.2)と前年同月に比べて増加を示しているものの、売上高は(-5.6)とやや減少傾向となっている。客単価(-8.7)や客数(-1.8)が減少していることが影響していると考えられる。仕入れ原価については、やや増加(2.2)しているものの、販売価格はほぼ横ばい(-0.4)であり、販売価格の上昇にはつながっていない。

景況感調査によると周辺地域景気を表わす現状判断D Iは、39.5と悪化しており、消費者購買意欲についても41.8と50を下回っていることから、買いだめ一巡の影響や震災後の地域景気の悪化などの影響で地域景気や消費マインドの落ち込みを感じていることがわかる。



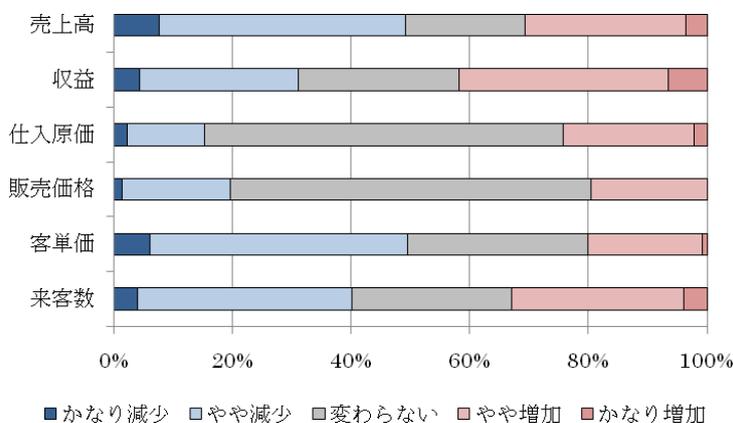
I I. 調査結果

(1) 回答構成比

①経営動向調査：4月実績（前年同月比と比べて）

前年同月比（％）

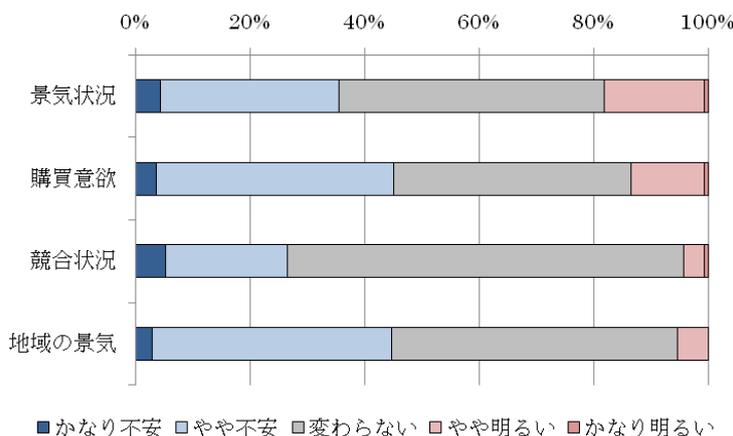
	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高	7.6	41.5	20.2	27.1	3.6	-5.6
収益	4.3	26.7	27.1	35.4	6.5	3.2
仕入原価	2.2	13.0	60.5	22.1	2.2	2.3
販売価格	1.4	18.1	60.9	19.6	0.0	-0.4
客単価	6.1	43.4	30.5	19.4	0.7	-8.7
来客数	3.9	36.2	26.9	29.0	3.9	-1.8



②景況感調査：4月の現状（2～3ヶ月前と比べて）

現状判断（％）

	かなり不安	やや不安	変わらない	やや明るい	かなり明るい	DI
景気状況	4.3	31.2	46.5	17.4	0.7	44.8
購買意欲	3.5	41.5	41.5	12.8	0.7	41.4
競合状況	5.3	21.3	69.1	3.5	0.7	43.3
地域の景気	2.8	41.8	50.0	5.3	0.0	39.5



(2) 景気動向の推移、先行き

①経営動向調査：4月実績（前月と比べて）

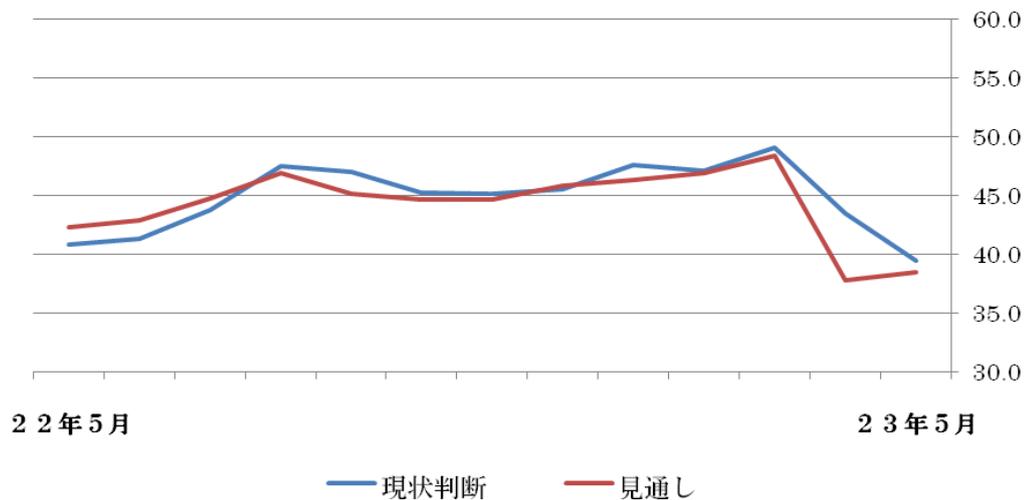
買いだめの反動や震災の影響による消費の落ち込みにより前月から減少傾向にある

	DI	変化	
売上高	-10.4	減少	➡
収益	-5.7	減少	➡
仕入原価	0.4	横ばい	➡
販売価格	-2.5	やや減少	➡
客単価	-11.4	減少	➡
来客数	-5.9	減少	➡

②景況感調査：「周辺地域景気DI」推移

（平成22年5月から平成23年5月）

地域景気については、先行き判断が現状判断を下回っており厳しい見方が多い



③景況感調査：今後2～3ヶ月後の見通し

先行きについていずれも40以下と厳しい見通しがみられる

